

## 女性研究者研究活動支援事業

(実施期間：平成 24～26 年度)

実施機関：鳥取大学（総括責任者：豊島 良太）

### プロジェクトの概要

#### (1) 支援室の体制と具体的な活動内容

男女共同参画推進室に配置するコーディネーターを中心に以下の事柄に取り組むことで、女性研究者が働きやすい環境を創出し、男女共同参画を着実に推進する。

- ① 女性教員の研究教育支援～明るい脳村プロジェクト～
  - ・研究資金、研究活動支援
- ② 生活支援、子育て・介護支援～お母さんといっしょプロジェクト～
  - ・有用情報の発信      ・制度、施設整備
  - ・意識啓発      ・相談員制度、ネットワーク形成
- ③ 女子学生のキャリアデザイン支援～女の一生プロジェクト～
  - ・研究機関見学会、セミナー、ネットワーク形成
  - ・博士課程進学者増加対策

#### (2) 研究を支援する者の配置計画

- ① ライフイベント期の女性研究者の業務軽減を図るため、研究支援員を雇用する。
- ② 相談員養成のための研修を行い、相談員制度を設ける。

#### (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果 (システム改 革)	実施体制	実施期間終了 後の取組の継 続性・発展性
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

#### (2) 評価コメント

女性限定教員公募の実施により女性教員の在籍比率や採用比率を向上させ、所期の目標をほぼ達成した。特に女性教員の少ない工学系、農学系分野で大幅に女性教員を増加させ、また、上位職階への女性教員の登用を進めたことは評価できる。復職希望の地域の女性を研究支援員として雇用しキャリアアップを図る取組は、女性の再チャレンジ支援として評価できる。今後一層の女性教員の採用向上への取組を期待する。

- ・ **目標達成度**：学長の強いリーダーシップの下に実施した女性限定教員公募等の取組により、所期の目標をほぼ達成した。工学系、農学系分野の女性研究者の在籍比率が大幅に増加したこと、上位職階の女性教員が増加したことから、概ね目標を達成したと認められる。なお、地域学部については女性教員の採用を積極的に進めたにもかかわらず、結果的に女性教員の在籍比率が所期の目標を若干下回ったことについては、要因の分析と改善策の立案を期待する。

- **取組**：研究支援員として復職希望の女性を雇用することにより、女性研究者の支援と地域の女性の復職支援という相乗効果を上げており評価できる。ロールモデルによる講演会、女子学生（学部生や大学院生）を対象とした企業見学会等の実施による次世代育成の取組も、女子学生の大学院進学率の向上へ繋がっており評価できる。
- **取組の成果（システム改革）**：研究環境整備、意識改革、女性限定教員公募の実施により、工学系、農学系分野の女性教員が大幅に増加したこと、また、女性教員の上位職階への登用が積極的に進められたことは評価できる。さらに、次世代育成の成果として、女子学生の大学院進学率が向上したことも評価できる。
- **実施体制**：学長を委員長とした全学の代表者からなる男女共同参画推進委員会、その下に設置された理事が室長を務める男女共同参画推進室が中心となり、事業の企画、推進を行う全学的な実施体制を構築したことは評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：実施期間終了後も専任教員、専任事務補佐員を男女共同参画室に継続して配置し、実施体制を維持するとともに、研究支援員制度等、すべての取組を継続、更に発展させていることは評価できる。